

A decorative graphic on the right side of the page. It features three circles of varying sizes and colors: a large yellow circle at the bottom, a medium green circle in the middle, and a small green circle at the top. Thin lines in green and yellow connect these circles, creating a network-like structure. The lines extend from the top left towards the circles and from the bottom right towards the large yellow circle.

横浜市福祉サービス第三者評価
評価結果報告書
太陽の子 日吉保育園

平成 27 年 11 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	7
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	11
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	12
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	13
評価領域Ⅵ 経営管理.....	14
利用者家族アンケート分析.....	15
利用者本人調査.....	19
事業者コメント.....	22



実施概要

事業所名	太陽の子 日吉保育園		
報告書作成日	平成 27 年 11 月 26 日	(評価に要した期間 4 カ月間)	
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター		

*評価方法

1. 自己評価 【実施期間：平成 27 年 7 月 21 日～9 月 10 日】
 - ・ 職員会議で主旨等を説明後、常勤、非常勤すべての職員が勤務時間内に自己評価を行った。
 - ・ 職員を 4 グループに分け、話し合いを行い、園長と 4 グループのリーダーが協議・合意して、一つにまとめた。
2. 利用者家族
アンケート調査 【実施期間：平成 27 年 8 月 17 日～8 月 31 日】
 - 配 付：全園児の保護者（50 家族）に対して、園から手渡しした。
 - 回 収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 【実施日：平成 27 年 10 月 19 日、10 月 22 日】
 - 第 1 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長）
 - 第 2 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：職員ヒアリング調査
(主任・リーダー保育士 3 名・非常勤保育士 1 名・栄養士 1 名・看護師 1 名)
事業者面接調査（園長、主任）
4. 利用者本人調査 【実施日：平成 27 年 10 月 19 日、10 月 22 日】
 - ・ 訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子等を観察。
 - ・ 乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間等に適宜聞き取り調査を実施。



評価結果についての講評

【施設の概要】

太陽の子日吉保育園は、東急東横線日吉駅西口から徒歩約 12 分の静かな住宅地の一角にあり、平成 25 年（2013 年）4 月、長谷川興産株式会社（現長谷川キッズライフ株式会社）により開設されました。

園舎は2階建てで、1 階に0歳児、1 歳児、2 歳児の保育室と調乳室、沐浴室、幼児用トイレ、事務室兼医務室があります。2 階には3歳児、4 歳児、5 歳児の保育室、幼児用トイレとフリースペースを挟んで調理室があり、保育室は南向きで明るく風通しも良い作りになっています。幼児の保育室の壁は可動式になっていて、毎月の誕生会や生活発表会などの催し物の際に大きなホールとして使用することができます。園庭では体を動かして遊び、夏季はプール遊びをしたりプランターで植物や野菜を育てたりしています。

定員は 49 名です。延長保育、一時保育を実施しており、開園時間は、平日 7 時 30 分から 20 時 00 分、土曜日は 7 時 30 分から 18 時 30 分となっています。

保育理念は「“のびのび すくすく にこにこ” 子ども・保護者・地域・保育者 みんなで感動を分かち合い満足できる 笑顔あふれる保育園を目指します」と定め、理念を基に保育目標を「・心身共にたくましく 元気な子ども ・友達と仲良く遊び 思いやりのある子ども ・感性豊かで 自分で考え行動ができる子ども」としています。また、保育方針を「・安心できる人間関係、整った保育環境の中で自己を十分に発揮しながら活動することにより、健全な心身の発達を図ります ・様々な経験や人との関わりの中で、温かい人間性と豊かな感性を持った子に育てます ・子育て支援や地域との交流を深め、存在感のある保育園になるよう支援の充実に努めます」としています。

1. 高く評価できる点

●子どもたちは大切に見守られながらのびのびと園生活を楽しんでいます

保育士は子どもたちのしたいことを大切に考えて保育をしています。子どもたちは、おままごとをしたり、ブロックをしたり、一人で静かに本を読んだり、好きなことに集中して自由に遊んでいます。一生懸命作った作品を「飾っときたい」と言ってきた子どもの気持ちを汲み取り保育士が了解すると、子どもは嬉しそうに本棚の上に作品を飾っていました。保育士は子どもの意欲を大切に考え、主体性を高める保育を実施できるよう心がけています。

保育士は子どもの様子を見て、一人一人にあった援助をしています。発達過程で自己主張が出てきた様子を受けとめ、着替えやトイレ等、子どもが自分でできるところまで見守っています。発達の状況に応じて、自分でできるように働きかけることを大切に考え、保育士はさり気なく援助し、基本的な生活習慣の自立に向けて取り組んでいます。利用者家族アンケートでも「子どもの様子を注意深く観察してくれて満足です」の声がありました。

異年齢の子どもたちは朝の合同保育や散歩、子どもの日、七夕などの催し物で日常的に交流しています。3・4・5歳児クラスは、合同で「リズム遊び」を行い、曲に合わせて身体を動かすことを一緒に楽しんでいます。3歳児の子どもが5歳児の子どもの動きを見て、手を叩き、ジャンプを真似ている姿がありました。また、4歳児が3歳児と合同で「椅子取りゲーム」を行ったとき、いつもは、負けると泣いていた4歳児が感情を抑え、3歳児と別れた瞬間、悔し涙を見せたときも保育士はさり気なく優しく声をかけ、子ども同士の関わりを見守ります。子どもが自分の気持ちや考えを言葉や態度で安心して表現し、また、子ども同士の

つながりが深められるよう、保育士は子どもたちの成長を見守りながら、保育を行なっています。
このように園全体が大きな家族のような環境の中で子どもたちはのびのびと園生活を楽しんでいます。

●職員間の良好なコミュニケーションが保育に活かされています

職員会議やフロアーミーティングで各クラスの担任から子どもたちの状況が報告されています。「つかまり立ちした」「離乳食を喜んで食べている」「言葉がうまく言えずに手が出る」「トイレで上手にできた」等、職員間で子どもたちの情報は共有されています。担当クラスの子もだけでなく、園全体で子どもたちを理解して適切に声かけをしています。利用者家族アンケートでも「違うクラスの先生も名前を覚えてくれて声をかけてくれて嬉しい」という意見がありました。

日頃の保育業務も自然に分担しています。例えば保育士が絵本を読んでいるとき、席を立ったり、声を出したりする子どもがいたら、別の保育士が傍に行き見守り、ほかの子どもは絵本に集中できるよう連携しています。職員ヒアリングでも職員間は話しやすいとの回答がありました。

毎月開催される園内研修では職員が講師を担当して保育に活かすように努めています。看護師は日頃の子どもの健康管理やケガの対応等について保育士の相談相手となり、感染症予防と対処方法について指導を行っています。また、栄養士は保育士と一緒に子どもたちの食育とクッキングに取り組んでいます。このように子どもたちが元気よく遊びながら、さまざまな学びができるよう、職員全員で連携しながら子どもたちを見守る保育を実践しています。

2. 工夫・改善が望まれる点

●保護者の意見や要望を汲み取り、情報を提供する工夫が望めます

利用者家族アンケートでは「子どもが戸外活動を十分しているか」の項目で“どちらかというと不満”“不満”の数値が、ほかの項目に比べ高くなっています。また、「個人面談がない」「職員の入れ替わりが多い」などの意見がありました。開園当時に比べ、交通安全に注意をして天気の良い日は園外活動を行っており、また、個人面談は随時実施し、保育参観・参加は積極的に受け入れています。こうした内容も含めた情報を提供するために、園は「園だより」「クラスだより」「給食だより」「保健だより」を毎月発行したり、ブログを頻繁に更新するほか、日々のクラスの様子を活動ノートに記載し、提示したり、連絡ノートを用いて家庭とのやりとりをきめ細かく行っています。

今後は、より一層保護者が個人面談や保育参観・参加の希望を出しやすくするためにも、保護者から出された、相談や要望・意見などを記録してサービスの向上に活かす取組や保護者の意向を汲み取り、保護者の不安を取り除くような情報の伝え方のさらなる工夫が望めます。

●さらなる地域子育て支援の充実が期待されます

保育士は散歩で会った地域の人と積極的に挨拶を交わし、公園では遊びに来ている親子と一緒にどんぐり拾いをする等、交流している姿が見られます。5歳児は食育の食材を近隣の商店へ買い物に行き、周辺の公園や遊歩道に出かけ、地域に親しんでいます。また、一時保育や園庭開放などの取組も行っていますが、調査時点では、地域住民への情報提供や育児相談の対応についての積極的な取組は行われていません。

今後は、保育園が培ってきた育児に関する豊富な知識や経験を活かして、地域住民に向けた身近な子育て支援の講習会や読み聞かせの会の講師をしたり、定期的に相談日を設けて子育ての相談に応じる等、保育課程や事業計画にうたっている地域子育て支援、地域との連携が期待されます。



分類別評価結果

評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅰ-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	評価結果
・保育理念は「のびのび すくすく にこにこ 子ども・保護者・地域・保育者、みんなで感動を分かち合い、満足できる笑顔あふれる保育園を目指します」とし、保育方針は「・安心できる人間関係、整った保育環境の中で自己を十分に発揮しながら活動することにより、健全な心身の発達を図ります ・様々な経験や人との関わりの中で、温かい人間性と豊かな感性を持った子に育てます ・子育て支援や地域との交流を深め、存在感のある保育園になるよう支援の充実に努めます」としています。保育目標は「心身共にたくましく 元気な子ども」「友達と仲良く遊び 思いやりのある子ども」「感性豊かで 自分で考え行動ができる子ども」としており、利用者本人を尊重したものとなっています。 ・職員全員に配布される職員研修資料には、初めに保育理念と保育目標、保育方針が記載されており、日常的な職員会議でも、保育理念、保育方針に立ち返ることが多く、職員は基本方針を理解しています。 ・保育課程では、「住宅地の一角に位置し、少子化・核家族化により育児の伝承機能や地域総合扶助力の低下の支えとして、一時保育・子育て支援の拠点になる」ことを積極的に進めることを掲げており、地域の実態を考慮して作成されています。 ・月間指導計画、週案を作成する際には、毎回子どもの様子などについての振り返りや計画の見直しを行い、子どもの自主性や主体性を育てていくように、計画には柔軟性を持たせています。 ・年度の初めには保護者懇談会を開催し、園としての保育理念やその年度の保育方針を説明していますが、今後は保育課程についても説明することが望まれます。	

評価分類Ⅰ-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施	評価結果
・一定の記録用紙によって、入園までの生育歴や、家庭での状況について把握しています。面接時には、子どもの様子を細かく観察し、個人面談記録票に残しています。 ・入園時に面接や、調査票で得られた情報は、児童票に記載され、日々の保育に活かされています。 ・新入園児に対しては、3名ずつにグループに分けて、それぞれ主担当とする保育士を決めています。 ・個人別の連絡ノートを用いて保護者との間で連絡をとりあっています。 ・月案や週案を作成するときには、クラス担当者だけでなく、職員会議などで個々の子どもの状況を報告しあい、情報を共有しながら作成しています。	

評価分類 I-3 快適な施設環境の確保	評価結果
	
・保育室や共用空間は清掃チェックリストに沿って清掃が行われており、園内は清潔に保たれています。 ・各保育室は壁やパーティションで仕切られており、ほかのクラスの音や声が騒音にならないように配慮されています。 ・1・2歳児の保育室にはトイレに温水シャワーが設置されており、2階の幼児用のトイレにも温水シャワー設備が備えられています。 ・0歳児の保育室はハイハイをする子どもと、歩くことができる子どもを可動式の柵を設けて空間を別にする工夫をしています。1歳児と2歳児の保育室は手作りのブロックでコーナーを作り、少人数で遊べるように工夫をしています。 ・2階の3・4・5歳の部屋はパーティションで仕切られていますが、合同でリズム体操などをするときには、パーティションをたたんで広い空間を作ることができ、異年齢児交流のスペースとしています。また、朝の合同保育は1階の保育室で行い、異年齢児間の交流を含めた保育を行っています。	

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果
	
・0～2歳児までの子どもの個別指導計画を作成しています。また、特別な課題がある場合には、3歳児以上の幼児についても個別指導計画を作成しています。 ・離乳食、トイレトレーニングなどは、子どもの状況を見て、保護者と話し合いを行い、個別指導計画に反映しています。 ・入園後の発達の記録は児童票、発達記録、健康台帳にそれぞれ記録されており、事務室の鍵のかかるロッカーに保管されています。職員は必要なときに見ることができるようになっています。	

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	評価結果
	
・年度末に港北区から特に配慮を要する子どもの受け入れについて問い合わせがあった際には、必ず受け入れています。 ・毎月開かれる職員会議では、特に配慮を要する子どもの状況等について話し合われ、記録が残されています。 ・障害児保育については、横浜市総合リハビリテーションセンターから、保護者の同意のもとに助言を得られる体制をとっており、障害の特性を考慮して個別の指導計画を作成しています。 ・危機管理マニュアルの中に虐待が疑われるときの対応についてフローチャートで示されており、職員に周知されています。また、虐待が疑われるようなケースがあったときには港北区や横浜市北部児童相談所に連絡する仕組みがあります。 ・入園時の調査票にアレルギーについての記入欄があり、アレルギーのある子どもについては医師からの生活管理指導表に基づいて、個別にアレルギー対応方法を検討し、看護師、栄養士、保育士が連携して対応しています。また、アレルギー対応マニュアルがあり、アレルギー疾患に関して職員会議などで話し合われ、基本的な知識が周知されています。 ・日本語でのコミュニケーションが難しい保護者とは、パソコンで自動翻訳のソフトを使って、現地語に翻訳して示したり、英語を使って説明したり、意思疎通に努めています。	

評価分類Ⅰ-6 苦情解決体制	評価結果
	
	・苦情受付担当は園長となっており、入園のしおりに記載されているほか、園内に掲示して保護者に周知されています。また、入園のしおりには第三者委員（2名）の紹介と苦情受付の方法が掲載されており、第三者委員に直接苦情を申し立てることができるようになっています。 ・「太陽の子 保育所利用者の意見・要望等の相談解決実施要領」が定められています。また、入園時のしおりにも苦情を受け付けてから解決に至るまでの仕組みが記載されています。 ・日常的な登降園の際の会話や運動会等のイベント時のアンケートなどで保護者の要望を把握するようにしていますが、今回のアンケートでは意見や要望の対応についての改善が望まれていることから、さらなる取組が期待されます。 ・今後は外部の権利擁護機関（横浜市福祉調整委員会、かながわ福祉サービス運営適正化委員会等）があることを入園のしおりや掲示などで保護者に伝え、外部の権利擁護相談機関との連携体制をつくることが望まれます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕	評価結果
	 ・おもちゃや教材などは子どもの手の届く所に種類ごとにかごや箱に分けて収納され、取り出したり、片付けがしやすくなっています。本は選びやすいよう表紙を見せて収納しています。 ・子どもの年齢や発達、季節に合わせて遊具を入れ替える等、環境構成に配慮しています。0歳児クラスでは、ハイハイやつかまり立ちをするようになると、ベビーベットを片付け、棚の角を布などで覆うなどの配慮をしています。 ・一斉活動はみんなで遊ぶ楽しさを知り、幼児は椅子取りゲームやフルーツバスケット等、ルールのある遊びを楽しみ、ルールを守ることを年齢に応じて取り入れています。 ・自由遊びでは一人一人が興味・関心を持って遊べるよう、幾つかのコーナーを設けています。保育士は子どもたちが何をしたいのか思いを受け止め、さりげなく援助をしています。 ・クラスごとに園庭でヒマワリ、アサガオ、ゴーヤ、キュウリを栽培し、収穫したゴーヤやキュウリは調理職員に調理してもらい、試食しました。また、カブトムシは冬を越して幼虫から育て、その過程を観察して楽しんだり、絵に描いたりしています。散歩中に青空にはめずらしい鰐雲を見つけて、図鑑で調べる姿も見られました。 ・お散歩マップには周辺の公園の特徴や道中の注意点が写真入りで具体的に示され廊下に掲示しています。散歩記録には各クラスが天気の良い日は、ほぼ毎日散歩している活動が記録されています。年齢に応じて“どんぐりや落ち葉など自然に触れ”や“秋の雰囲気を感じて”等、テーマを持って自然に触れる機会を積極的に設けて活動しています。 ・子どもの年齢や発達に応じて、身近にあるさまざまな素材を用いて製作したり、リズム運動で体を動かしたり、音楽や造形等、自由な方法で楽しく表現できるよう心がけています。 ・子どもたちが自由に製作や絵が描けるよう素材を準備し、十分に取り組める時間を確保するようにしています。また子どもたちの好きな曲を用意して、自由に歌ったり、曲に合わせて体を動かしたりしている姿が見られます。 ・子ども同士のけんか等については、年齢に応じて乳児は危険の無いように保育士が間に入って気持ちの代弁をしています。幼児クラスでは、3歳児から、「入れて」「貸して」「ありがとう」等、必要な言葉を使ってやり取りすることを教え、お互いの思いを汲み取り、納得して解決できるよう見守っています。 ・職員は、常に子どもの気持ちを受け止めるよう心がけ、信頼関係を築くように努めています。 ・天気の良い日は積極的に散歩や野外活動を取り入れて自然に親しむようにしています。季節により夏は泥んこ遊びや水遊び、秋はどんぐりや枯葉などに触れ、自然の変化に気付くよう配慮しています。 ・発達過程に応じて、運動能力が高められるよう配慮しています。幼児はリズム遊びを通して体を動かす楽しさを知り、大縄跳びなどにも挑戦しています。乳児は手すりを持って手作りの段差の上り下りをしたり、園庭で缶ぽっくりやボール遊びで体を動かし、全身を使って遊んでいます。

評価分類Ⅱ－１ 保育内容【生活】	評価結果
	
・食事は無理強いせず、量が食べられない子どもには量を減らし、苦手な食べ物は少しずつでも食べるよう促し、声かけをして喜んで食べられるよう配慮しています。食事は楽しい時間となるよう心がけ、子どもが自発的に食べるよう保育士は「おいしいね」「すごい、お野菜食べたね」と声をかけ援助しています。 ・食器は磁気食器を使用して安全に配慮しています。年齢に応じて食器の大きさを変えています。スプーンとフォークは0歳児用、1・2歳児用、幼児用と3種類あり、0歳児のスプーンは衝撃に優しいシリコン素材で持ち手の形状も工夫されています。箸は幼児から使用しています。 ・給食会議では、担任からクラスごとに子どもの様子などの報告を受け、状況を確認し、子どもの好き嫌いを把握して調理方法などを工夫しています。また、旬の食材を取り入れ、季節や行事に合わせた献立作りやリクエストメニューを献立に取り入れて子どもが喜ぶ食事作りをしています。 ・献立表は3歳児以上、3歳児未満、モグモグ期（7～8カ月）、カミカミ期（9～11カ月）、パクパク期（12～18カ月）の5種類があり、それぞれ前月末に保護者に配布されています。毎月の給食だよりに食育の様子や「よく噛んで・味わって食べましょう」、「なんでも食べよう！ バランス良く」「夏野菜をたくさん食べよう」などをテーマに食事に関する情報を提供しています。 ・希望する保護者を対象に「給食試食会」を実施しているほか、一日保育参加の日に子どもたちと一緒に給食を食べる機会を設けています。 ・乳幼児突然死症候群対策として0歳児は5分間隔、1歳児以上は10分間隔でタイマーを用い呼吸チェックをするほか、うつ伏せになっていないか、呼吸音、顔色、汗、寝具が顔に掛かっているかなどもチェックをし、記録しています。 ・トイレトレーニングは一人一人の発達状況を把握して個別に対応しており、職員会議でその都度報告し合い、職員全員が子どもたちの状況を把握しています。また、保育園での排泄状況を送迎時に口頭で伝えたり、連絡ノートに記入する等、保護者と常に連携を取って進めています。	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】	評価結果
	
・子どもの健康管理に関するマニュアルがあります。職員はそれに基づいて、毎日の朝の受け入れ時に視診しています。さらに看護師がクラスを巡回していて、子ども一人一人の健康状態の把握に努めています。 ・歯科健診の際に歯科衛生士から歯磨き指導の話をしてもらい、ブラッシングの指導を受けています。3歳児以上は食後、安全のために座って各自歯磨きをして、保育士が仕上げ磨きをしています。1・2歳児はぶくぶくうがいをしています。 ・年2回の健康診断、年1回の歯科健診を行い、一人一人の結果を健康台帳に記録しています。また、健康診断の結果は連絡ノートに記載し、保護者に伝え、歯科健診の結果は「歯科健康診断のお知らせ」に記入し、配布するほか、それぞれ口頭でも保護者に伝えています。 ・保護者には「入園のご案内」で登園停止基準や感染症の疑いが生じた場合の対応などについて説明し、周知しています。保育中に発熱や感染症の疑いが生じた場合は、保護者にすぐ連絡をして、ほかの子どもたちから隔離して医務室で待ちます。保護者の事情を考慮してその間は医務室で看護師が対応します。また、感染症が発生したときは直ちに情報を保護者に伝えるよう、玄関に入って正面に設置してあるホワイトボードに掲示する等、迅速に対応しています。 ・看護師が研修で得た感染症に関する最新情報は園に持ち帰り、その都度報告して職員周知を行っています。	

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 〔衛生管理〕	評価結果
	
・衛生管理に関するマニュアル（施設内外の衛生管理、職員の衛生管理、保育所における消毒薬の種類と使い方、清掃・消毒、感染経路とその予防など）があります。マニュアルは本社の看護師会で見直しをしています。マニュアルの内容は職員会議で確認し、見直しの都度看護師より報告され、園内研修で周知しています。調査時点では、保育士がわかりやすい新しいマニュアル作りに取り組んでいました。 ・感染症対応マニュアルは“施設内外の衛生管理”と、“清掃、消毒”について保育室、トイレ、玩具、沐浴室、ホール、廊下等、場所ごとの清掃の頻度・回数を示し、さらに普段の清掃方法と感染症発生時と分けて、わかりやすく丁寧に示されています。職員はこのマニュアルに基づき、「掃除チェック表」を活用して清掃等を行ない、園内外は清潔に適切な状態が保たれています。午睡の寝具は園で貸し出しており、シーツは週1回、布団は1カ月に一度消毒乾燥して衛生に留意しています。	

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 〔安全管理〕	評価結果
	
・安全管理に関する「危機管理マニュアル」には、未然に防ぐ環境作り、保育・散歩・水遊びにおける安全管理、防災対策、災害対応、事故、ケガ等、それぞれの事態を想定した対応が記載され職員に周知しています。 ・火災、地震など想定される災害の避難訓練を毎月実施しています。目的（火災時園庭への避難経路手順を知る、「おかしも」の語彙を伝える等）、訓練の種類を明確にしてクラスごとにその都度反省点と課題を出して次に活かしています。 ・年に1回、消防署の職員が来訪し、救急法の指導研修を実施しています。 ・子どものケガについては軽傷であっても保護者に口頭で伝え登降園時、チェック表に記録しています。事故やケガなどは朝会や職員会議で報告され、職員は改善策を話し合い、その内容を職員全体で共有し、再発防止に努めていることが職員会議録で確認できました。 ・不審者の侵入防止策として、出入口は電子錠と暗証番号付きの施錠でオートロックになっており、警備会社と契約しています。防犯カメラが出入口付近等、4カ所に設置され、事務室内で確認することができます。また、緊急通報体制が整備されているほか、地域の警察（スクールサポーター）から指導を受け、不審者対応訓練を実施しています。	

評価分類Ⅱ－3 人権の尊重	評価結果
	
・職員研修資料の中に「言葉掛け」の項目があり、人権を否定し権利を奪ったり、差別や自尊心を傷つける言葉を使わないとして、具体的に例を挙げて示しており、職員間でお互いに気を付けるよう努めています。 ・保育士等職員は、穏やかな気持ちで丁寧な言葉掛けをするように心がけ、一人一人の子どもの気持ちに寄り添い、子どもの気持ちや考えを言葉や態度から汲み取るよう配慮しています。 ・本棚の脇のコーナーや棚の隅など、友達や保育士の視線を意識せず過ごせる場所があります。 ・必要に応じて、フリースペースや廊下、事務室などで一対一で話し合える場所やほかの人から見えない場所を用意することができます。 ・遊びや行事の役割などで性別による区別はしていません。男の子がままごとをしている姿が見られたり、製作などでも好きな色を選んでいきます。また、性差についてフロアーミーティングや全体ミーティングなどで職員同士が話しあう仕組みがありますが、今後はさらに無意識な性差による固定観念をお互いに反省しあえるような取組が望まれます。	

評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携	評価結果
	
・保護者には入園式や懇談会などで保育の基本方針を説明しています。毎月配布している「園だより」「クラスだより」で、園の保育方針やそれに基づいて日常の保育を行っていることが理解されるよう伝えています。またいつでも目に触れられるよう玄関に掲示しています。 ・連絡ノートは園児全員が持ち、乳児クラスは毎日、家庭での様子・園での様子をきめ細かく情報交換し、幼児は保護者の要望により、随時利用し、保育士は必ず記入して情報交換しています。 ・クラス全体の様子を伝える保護者懇談会は、年２回、進級時と年度末に実施しています。個人面談は保護者の要望に応え、随時行われています。 ・保護者からの相談は主にクラス担任が担当し、相談を受けた保育士が適切な対応ができるよう、園長が助言をしています。また、相談内容によっては、看護師や栄養士が助言を行うこともあります。 ・毎月「園だより」「給食だより」「保健だより」を発行して園での様子を保護者に知らせています。また「クラスだより」は各クラスの様子やエピソードなどを伝えています。 ・幼児クラスは「今日の様子」と題するノートに活動内容、子どもたちの様子を記載して保護者にその日の様子を伝えています。 ・保育参観・参加は年２回実施しています。これ以外にも保護者から保育参観・参加の希望があった場合は、積極的に随時受け入れています。保育参加や懇談会等に出席できなかった保護者には懇談会内容を記載したお便りを渡したり、保護者の希望を聞き、都合の良い日に保育参観を受け入れています。 ・運営委員会は年２回あり、各クラスより選出された保護者が運営委員として出席しています。運営委員会では保護者からの意見・要望などを述べてもらう等、意見交換し、コミュニケーションを図っています。話し合った内容は議事録を作成し、保護者に公開しています。	

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－１	評価結果
<u>地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</u>	
・ 地域の子育て支援ニーズや要望を把握するための取組は、一時保育や見学時に地域の保護者から相談を受ける等、子育て事情や保育事情を聴く機会を持っています。また港北区認可保育所等施設長会でも話し合いを行っています。 ・ 地域の子育て支援をするためのサービスとして一時保育と園庭開放を実施しています。 ・ 地域の子育て支援ニーズについて、職員間での話し合いを持つまでには至っておらず、地域住民に向けて子育てや保育に関する講習会、研修会は開催されていません。今後は、子育て支援ニーズに応じた保育の専門性を地域に還元する取組が期待されます。	

評価分類Ⅲ－２	評価結果
<u>保育所の専門性を活かした相談機能</u>	
・ 保育園の見学で訪れた地域の保護者からの育児相談や子どもの身体測定などを実施しています。 ・ 必要な関係機関や医療機関、地域の団体等を一覧表にして事務室に掲示し、ファイルにして職員はいつでも見られる状態になっています。地域住民からの相談に応じて関係機関と連携が取れるよう園長が担当者となっています。 ・ 育児相談は随時行っていますが、定期的に相談日を設けてはいません。今後は、育児支援に関する情報提供を行い、定期的な育児相談日を設けて地域住民に周知することが望まれます。	

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１	評価結果
保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ	 
・園の運動会は近隣の小学校のグラウンドを借り、用具等も借りて行っており、小学校との連携が図られています。 ・毎日の散歩などの際に地域住民と挨拶を交わし、また、地域の商店に買い物に行き、会話をする等、日常的に地域の人たちと交流をしています。 ・地域への施設開放や地域の行事等への参加は行われていません。今後は自治会や町内会等と協力し定期的な交流を行う取組などを通じて、地域コミュニティへの働きかけを積極的に行っていくことが期待されます。	

評価分類Ⅳ－２	評価結果
サービス内容等に関する情報提供	  
・保育園に訪れた見学者などには、園の保育理念などが記載されているパンフレットを配布しています。ホームページでは園のブログで保育の様子等、園の情報を公開しています。 ・園の基本方針や利用条件などは「入園のご案内」やホームページの「よくあるご質問」に掲載しており、必要に応じて資料に基づき説明を行っています。 ・保育園の利用希望者に、随時見学ができることを案内しています。また見学希望者にあらかじめ希望する日を聞いて、見学者の都合に合わせて対応しています。	

評価分類Ⅳ－３	評価結果
ボランティア・実習の受け入れ	 
・ボランティアの受け入れマニュアルは「ボランティア オリエンテーション」としており、園の理念や守秘義務等、子どもへの配慮について明記されていますが、ボランティア受け入れの実績が無く、職員に対する教育や研修は行われていません。今後はボランティアの受け入れを積極的に行う取組が期待されます。 ・実習生受け入れのマニュアルがあり、それに基づき実習生に対する説明を行っています。実習目的に沿って、学校側と相談してプログラムを作成し、実習を実施するクラスや指導する職員の配置を工夫しています。また、毎日実習の振り返りを行い、最終日には職員と実習生の意見交換の場を設けています。	

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類Ⅴ－１ 職員の人材育成	評価結果
	  
・職員は年に２回、自己評価を行っています。年度初めに目標を設定し、半年ごとにその振り返りを行っており、園長が面談して確認しています。 ・研修計画担当責任者は園長となっており、職員のニーズを把握しつつ年間研修計画を策定しています。運営会社が主催する各職位別の研修が行われてるほか、横浜市や保育の専門機関等が実施する外部の研修会に積極的に職員は参加しています。 ・研修報告書は、研修内容が園や自分にとってどのように役に立つかを記載するようになっており、研修の成果を職場で活かすための工夫がなされています。また、研修報告をもとに研修の内容について見直しを行っています。 ・非常勤職員も常勤職員と同様に毎月実施されている園内研修や職員会議に参加し、資質向上への取組を行っています。また、非常勤職員の指導は主任が担当し、職員間のコミュニケーションが図られています。 ・今後はさらに人材育成に対する基本的な考え方や人材育成の方法、昇任・昇給などの仕組みが明記された人材育成計画を策定することが望まれます。	

評価分類Ⅴ－２ 職員の技術の向上	評価結果
	 
・職員は年に２回、自己評価をする仕組みとなっており、年度始めに設定した自分自身の目標に対して振り返りを行っています。 ・週案や月案では、設定した計画に対して都度振り返りを行っており、子どもの活動、育ちなどを重視して評価を行っています。また、振り返りを行ったときの課題を次の計画作成に活かして反映させています。 ・調査時点では、園の自己評価を行う仕組みは設定されていません。事業報告書を作成するのと同時に、園としての自己評価を行えるよう、次年度に向けて目標を設定して、振り返りを行う仕組みを早急につくり、園としての自己評価を公表することが期待されます。	

評価分類Ⅴ－３ 職員のモチベーションの維持	評価結果
	  
・運営会社において、職種別、職階別にそれぞれの期待する役割と能力・技術を明文化しています。 ・業務改善のために職員会議などで、具体的に職員から提案されている事例もあり、職員が意見、提案などを出し、検討する仕組みがあります。 ・年度末には、園長による職員に対する個人面談を行っており、その際に職員の満足度などを把握するようにしています。	

評価領域Ⅵ 経営管理

評価分類Ⅵ－１ 経営における社会的責任	評価結果
	 
・運営委員会で園の運営状況などが報告されています。 ・職員研修資料には職員としての服务内容が、就業規則には服務規律がそれぞれ示されており、職員に周知されていますが、施設での不正・不適切な事例を題材とした研修は行われていませんので、今後は、収集した情報などを用いて研修を行い、啓発していくことが望まれます。 ・裏紙の使用、また、ペットボトル、牛乳パックを工作や保育備品等の作成に利用する等、ゴミ減量化、リサイクルに取り組んでいますが、環境配慮への考え方、取組について明文化するに至っていません。今後は、環境問題に対して子どもたちが関心を持てるように、環境配慮への考え方、取り組む目的などを園の計画や目標として明文化することが期待されます。	

評価分類Ⅵ－２ 施設長のリーダーシップ・主任の役割等	評価結果
	  
・職員研修資料には園の基本理念・保育方針・保育目標が記載されており、全職員に配布し、研修を行うほか、職員会議などで、読み合わせを行っています。園長は理解を深めるための説明をしたり、年に２回行っている職員との面談時に基本理念などを職員が理解しているかについて確認しています。 ・０歳児クラスの定員を３名から６名に増やすときなどの重要な運営の変更については、職員、保護者に対して、理由や経過などについて説明を行いました。 ・運営会社は職階別に主任クラス、リーダークラスを育成する研修プログラムを作成しています。 ・主任は、業務全般の把握に努め、日常業務の中で個々の職員に対して、的確な助言や指導を行っています。	

評価分類Ⅵ－３ 効率的な運営	評価結果
	 
・事業運営に関連する重要な情報は、運営会社の園長会議などで伝えられ、園の職員会議などで議論されています。また、事業運営面での改善課題は、職員に周知し、園全体の取組としています。 ・次代の園長、主任を見据えた本社内研修を実施しており、幹部職員を計画的に育成しています。 ・運営に関し、外部の機関、専門家による意見を取り入れる仕組みはありませんので、今後は外部からの意見を取り入れ、運営に反映する仕組みの構築が望まれます。	



利用者家族アンケート分析

【実施概要】

- 実施期間 : 平成 27 年 8 月 17 日～8 月 31 日
- 実施方法 : 利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。
- 回収率 : 配付 50 件、回収 31 件、回収率 62%

【結果の特徴】 ※文中の「満足」「満足度」、は「満足」と「どちらかといえば満足」の回答を合計した結果です。

問 1 「保育目標、保育方針」については、70.9%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答え、その内 86.4%が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。

問 2～問 7 の中で満足度が高い項目を挙げると、

- ・遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持てているか
- ・感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について（以上 96.8%）
- ・お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか（96.3%）
- ・あなたのお子さんが大切にされているか（93.6%）
- ・話しやすい雰囲気、態度であるかどうか・園のおもちゃや教材について（以上 93.5%）
- ・園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供（90.4%）
- ・園の行事の開催日や時間帯への配慮
- ・あなたのお子さんが保育園生活をたのしんでいるか（以上 90.3%）

「満足」のみの数値で、50%を超える項目は、次のとおりです。

- ・問 7 「職員の対応について」 あなたのお子さんが大切にされているか（58.1%）
- ・ 同上 あなたのお子さんが保育園生活をたのしんでいるか（54.8%）
- ・ 同上 話しやすい雰囲気、態度であるか（51.6%）

問 2～問 7 の中で「どちらかといえば不満」「不満」と回答した割合が多い項目は次のとおりです。

- ・子どもが戸外遊びを十分しているか（45.2%）
- ・自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については（41.9%）
- ・おむつはずしは家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているか（22.6%）

保育園の総合満足度は 80.6%（満足 38.7%、どちらかといえば満足 41.9%）となっています。

「おむつはずしも園で協力してくれたおかげでパンツになれました」「子どもが保育園での生活を楽しそうに話してくれるので満足」「アンケートを取り、保護者の意見を取り入れてくれる」「室内でもマットを使って体を動かし子どもは楽しいようです」「保育参加や参観が定期的にあり、普段の様子やお友だちとの接し方がよくわかった」などの声があります。一方、「園外活動が少ない」「散歩に行く回数が少ない」「遠足など遠出をして欲しい」「個別面談がない」などの意見がありました。

太陽の子 日吉保育園 利用者家族アンケート集計結果

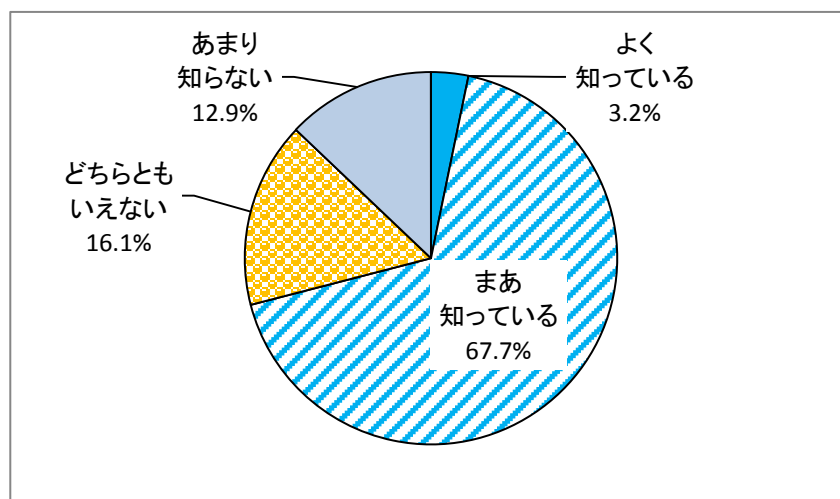
実 施 期 間	平成27年8月17日～8月31日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	50 件
有 効 回 答 数	31 件
回 収 率	62 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	5	5	5	9	5	2	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

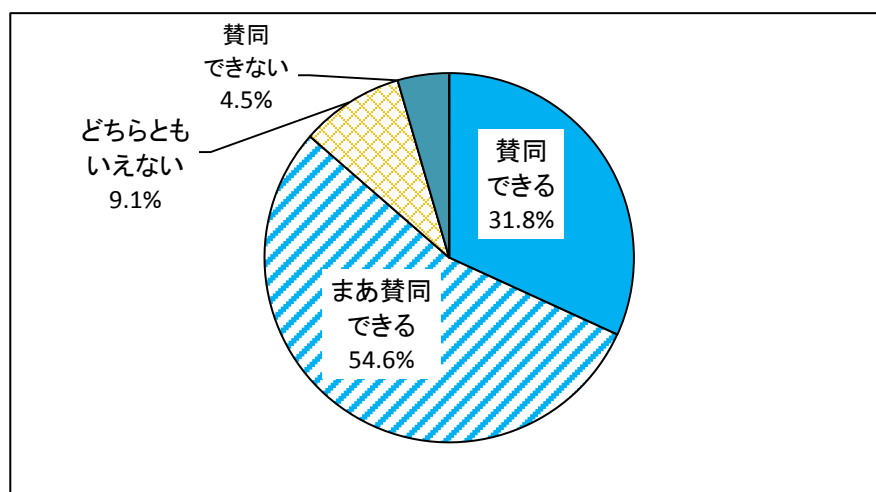
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	3.2	67.7	16.1	12.9	0.0	0.0	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
	31.8	54.6	9.1	0.0	4.5	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	29.0	25.8	0.0	3.2	38.7	3.2	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	25.8	41.9	0.0	3.2	29.0	0.0	
園の目標や方針についての説明には	25.8	48.4	12.9	6.5	6.5	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	38.7	48.4	9.7	0.0	3.2	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	35.5	38.7	16.1	3.2	6.5	0.0	
費用やきまりに関する説明については	38.7	45.2	6.5	3.2	3.2	3.2	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	22.6	61.3	3.2	12.9	0.0	0.0	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	22.6	61.3	6.5	9.7	0.0	0.0	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	38.7	45.2	9.7	6.5	0.0	0.0	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	35.5	19.4	25.8	19.4	0.0	0.0	
園のおもちゃや教材については	41.9	51.6	6.5	0.0	0.0	0.0	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	35.5	19.4	29.0	12.9	3.2	0.0	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	38.7	58.1	3.2	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	35.5	41.9	12.9	6.5	3.2	0.0	

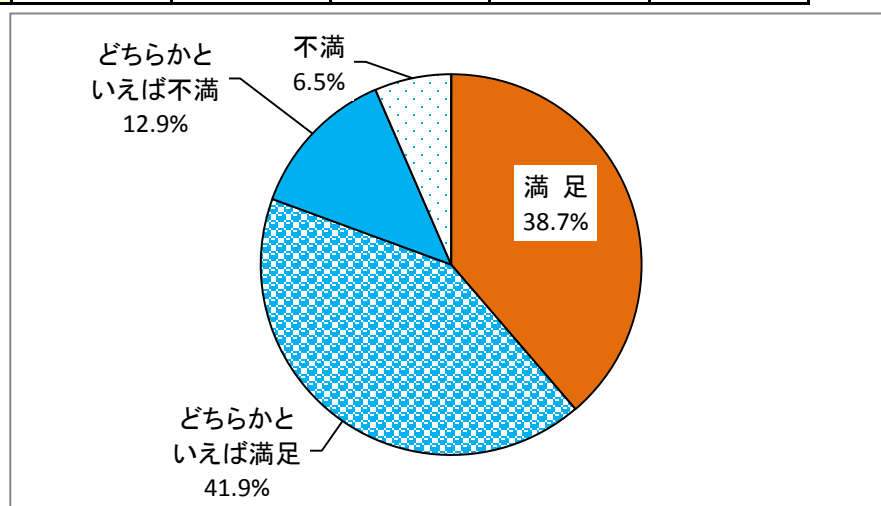
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	38.7	38.7	6.5	6.5	9.7	0.0	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	38.7	45.2	6.5	0.0	6.5	3.2	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	48.4	35.5	6.5	0.0	9.7	0.0	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	48.4	35.5	16.1	0.0	0.0	0.0	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	35.5	22.6	19.4	3.2	19.4	0.0	
お子さんの体調への気配りについては	48.4	38.7	12.9	0.0	0.0	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	38.7	48.4	6.5	6.5	0.0	0.0	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	45.2	41.9	6.5	6.5	0.0	0.0	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	41.9	54.8	3.2	0.0	0.0	0.0	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	16.1	61.3	12.9	6.5	3.2	0.0	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	38.7	58.1	0.0	3.2	0.0	0.0	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	19.4	54.8	12.9	6.5	6.5	0.0	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	38.8	51.6	9.7	0.0	0.0	0.0	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	41.9	48.4	9.7	0.0	0.0	0.0	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	29.0	54.8	6.5	6.5	3.2	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	35.5	51.6	6.5	3.2	3.2	0.0	
保護者からの相談事への対応には	41.9	45.2	12.9	0.0	0.0	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	41.9	48.4	3.2	0.0	6.5	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	58.1	35.5	6.5	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	54.8	35.5	6.5	3.2	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	38.7	38.7	6.4	0.0	16.1	0.0	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	51.6	41.9	6.5	0.0	0.0	0.0	
意見や要望への対応については	32.3	45.2	16.1	3.2	3.2	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	38.7	41.9	12.9	6.5	0.0	





利用者本人調査

【実施概要】

- 実施日時 : 平成 27 年 11 月 19 日、11 月 22 日
- 実施方法 : 午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

0歳児クラスの保育室は可動式の柵で仕切られ、歩ける子どもがハイハイの子どもにぶつからないようにそれぞれのスペースが確保されています。歩ける子どもは広いスペースで動き回ったり、入れ子式の大きなブロックを保育士と一緒に積み上げて遊んでいます。ハイハイの子どもはマットの上でぬいぐるみや手遊び玩具で遊んでいます。

お散歩は近隣にある大学のグラウンド脇まで出かけます。4人はバギーに乗り1名は保育士がおぶっていきます。園を出て歩道までは車が通るたびにバギーを止めて立ち止まり、安全を確認して歩き出します。歩道になると、保育士が「げんこつやまのたぬきさん・・・」と、歌を歌いながら歩きます。途中すれ違う人と「こんにちは」と挨拶を交わし、手を振る人に手を振って応える子どももいます。大学のグラウンド脇の松の川遊歩道に着くと、子どもたちはバギーを降りて歩き始めます。つまづいて膝をついてしまった子どもに保育士は「泣かなくて、えらかったね」と優しく声をかけています。帰り道も犬の散歩中の人とすれ違うと、「わんわん」と子どもたちが声を上げ、立ち止まって会話をしたり、地域の人たちとふれ合いながら園に戻りました。

給食の各プレートには“離乳食初期”“離乳食後期”“完了期”とシールが貼ってあります。初期の子どもには「スープをどうぞ、パクン」と保育士が声かけしながら、食べさせています。完了期の子どもは保育士の「おいしいね」の声に応え積極的に自分でスプーンを使い、食べています。保育士は授乳する子どもを抱き、他の子どもたちと少し離れた場所に移動します。子どもと目を合わせ、「あーん」と声かけすると、子どもは気持ちよさそうにミルクを飲んでいました。

●1歳児クラス

1歳児クラスの子どもたちは2台のテーブルにそれぞれ3人と4人が座り、保育士と手遊び歌を歌っています。別の保育士がおやつを配布し、「いただきます」と食べ始めました。口の周りにクリームがついてしまった子が「見て、見て」と、保育士に知らせてタオルで拭いてもらっています。保育士は牛乳を飲み終わった子に「もっと飲む？」と声をかけてお茶を入れています。使ったエプロンとタオルは自分でかごにしまい、トイレやおむつ替えのときも自分でズボンを履くなど、保育士は見守りながら援助しています。

保育士が「お話し、パチパチ、しっしっ静かに聞きましょう」と歌い、絵本を読み始めます。周りには子どもたちが集まってきます。絵本に出てきた「お化けが怖い」と子どもが声を出すと、保育士が傍に行き「お化けにバイバイしようね」と声をかけていました。

玄関で襟付きのピンクの帽子をかぶり、靴箱から自分の靴を持ってきます。自分で履けた子どもは「あら、上手」と保育士に声をかけられ、嬉しそうにしています。左右逆に靴を履いてしまった子には保育士が手助けして、履かせています。園庭に出て、みんなで一緒に遊びました。

保育室に戻り、順番に手を洗います。コーナーの手作りの椅子に座り、保育士に手伝ってもらいながらズボン等を着替え、着席してエプロンをつけます。配膳の間は保育士が絵本を読みます。給食の歌を歌って、「いただきます」「めしあがれ」と食事を始めました。乳児用の握りやすい形状のスプーンとフォークを使って自分で食べます。子どもたちは保育士と「お腹すいた」「これもおいしいよ」「すごーい。食べられたね」と会話を楽しみながら食べていました。

●2歳児クラス

2歳児クラスの子どもたちが保育士と会話をしながら、朝のおやつを食べています。「ごちそうさま」のあと、使ったタオルを自分で棚にしまします。トイレに行き、紙パンツを履き替えるときも保育士が見守りながら、できるところまで自分で履いています。

お散歩は川崎市市民健康の森公園に出かけます。玄関で二人ずつ手をつなぎますが、どうしても手をつなぐのを嫌がり泣いている子どもがいます。保育士は子どもの目線まで腰を落とし、「公園に行くまで、ちゃんと手をつなごうね」と、ゆっくりと話して聞かせていました。道中ですれ違う人と「こんにちは」と元気に挨拶を交わし、「ねこさんがいるね」「寝てるよ」「きれいなお花だね。なんていう名前かな?」「わからないー」「みかんの木があるよ」「みかん、いっぱい」等々、保育士の声かけに応えながら歩いていきます。坂道を下るときは「忍者さんで歩きますよ」と、ゆっくり、ゆっくり歩くよう、「あ・か・に・ん・じゃ、き・い・ろ・に・ん・じゃ、あ・お・に・ん・じゃ・・・」と、声をかけています。公園に着くと、保育士からビニール袋をもらい、どんぐりを拾い集めたり、お友達とかけっこをしたりして、自由に遊んでいます。遊びに来ている親子とも一緒にどんぐりを探して遊んでいました。保育士も子どもと一緒に走ったりしていますが、散らばる子どもに終始気を配り、声をかけています。帰り道では、遊び疲れているのか、眠そうにあくびをする子や「ママは?何時に来る?」とママに会いたくなって泣き出しそうになる子どもがいましたが、保育士が「朝は何食べた?」と聞くと、「納豆」「肉まん」と、子どもが答え、「おいしかった?」など、話題を変えて会話をしながら歩きます。みんな元気に「ただいま」と園に到着しました。

●3歳児クラス

3歳児クラスの子どもたちは、2歳児クラスの子どもたちと一緒に散歩に出かけます。途中、行き交う人と「こんにちは」と、元気に挨拶を交わし、車に注意しながら歩いていきます。近隣にある大学のグラウンド脇の松の川遊歩道に着くと、かけっこをしたり、葉っぱやどんぐりを探して拾い集めたり、自由に遊んでいます。別の日には、4・5歳児と一緒に日吉公園に行き、栗の実を見つけ、保育士が栗の“いが”から、栗の実が出てくることをわかりやすく子どもたちに話していました。また、色のついた葉っぱやセミの抜け殻、小さな池にいる魚を思い思いに観察するなど、植物、生き物を通して自然に親しみながら、遊んでいます。

みんなで給食のうたを歌い、「いただきます」と食べ始めます。「きょうは、お散歩して虫をみつけた」など、お散歩の出来事を話しながら、和やかに食事をしています。上手にお箸を使って食べている子やお箸と一緒にスプーンやフォークを使っている子もいます。それぞれ自分のペースで、みんなほとんど残さず、食べています。お代わりは食べられる量を自分で考えながら、自分で器によそっています。保育士が特に指示を出さなくても、食べ終わった子は、自分で食器を片付けていました。

●4歳児クラス ・ 5歳児クラス

4歳児クラスと5歳児クラスの子どもたちは、5歳児クラスの保育室で一緒に遊んでいます。テーブルでトランプをしたり、ブロックやおままごと、絵本を読んだり、みんな自由に遊んでいます。お片付けのときは、「〇〇くん、お片付けの名人だね」「〇〇ちゃん、ありがとう」と保育士が声をかけると嬉しそうにおもちゃをしまった箱を運んでいました。

お散歩も4・5歳児合同で、25分ほど歩いて下田町東公園に行きました。ゲートボールをしている高齢者のグループと親子連れが来ており、保育士は、子どもたちを集めて「小さな友達やゲートボールをしている人に迷惑にならないようにしましょう」と話しています。ブランコに数名が並び、数を数えながら順番を待ち、交代しています。鉄棒では“コウモリのかたち”を5歳児の子どもが披露すると、4歳児の子どもも挑戦していました。保育士が「すごいね」などと声をかけます。枯葉を集めて料理ごっこをしている子どももいます。みんな元気に好きなことを見つけて遊びました。帰り道では、2・3歳児クラスの子どもたちとすれ違い、手を振りあって歓声を上げていました。

園に戻り、着替えをして脱いだ服は自分でたたみます。給食は4歳児クラスの保育室で、5歳児も一緒に食べます。濡れタオルを自分で用意して席につきます。5歳児の子どもたちはデザートの実物を配膳するのを手伝ったり、自分の分の給食を自分でお皿によそっています。みんな一緒に「いただきます」をしたあと、好きな遊びやお気に入りのアニメの話などをしながら、和やかな雰囲気の中で、ほとんど残すことなく、みんなよく食べていました。

午後、食育の時間では、おやつ“おにぎりづくり”に取り組みました。5歳児の子どもたちがお米を研ぎ、4歳児はその様子を見学しています。ご飯が炊けたあと、おにぎりを握るのは、全員で行い、おやつ時間にみんな一緒に食べました。



事業者コメント

太陽の子 日吉保育園は27年度で開園3年目を迎えました。

「のびのびすくすくにこにこ」の理念のもと、職員一同、子ども達一人ひとりの思いを大切にし、丁寧な保育を行うよう、がんばっております。

初めて今年度、第三者評価を受審するにあたり、職員で保育指針の読み合わせから行い、何度も話し合いを持ちました。

自らの保育を振り返り、見直しを行い、お互いの保育感を確認しあう良い機会となりました。

これからも、今まで以上により良い保育を目指し、力を合わせて、日々努力していきたいと思えます。

保護者アンケートでは、保護者の皆さまから貴重なご意見を頂きましてありがとうございました。

これからも保護者の皆様のご意見を参考にし、共にお子様の成長を暖かく見守っていきたいと思っています。

第三者評価調査員の皆様には、改善点だけでなく、良いところも見つけて褒めて頂き、大いに励みとなりました。ありがとうございました。

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-02

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>

